

令和 5 年 6 月 5 日現在

機関番号：13301

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(A））

研究期間：2019～2022

課題番号：18KK0340

研究課題名（和文）生殖補助医療の国際的ガバナンスに向けた比較研究

研究課題名（英文）A comparative study for International governance on assisted reproductive technologies.

研究代表者

日比野 由利（HIBINO, YURI）

金沢大学・融合科学系・助教

研究者番号：40362008

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,900,000円

渡航期間： 10ヶ月

研究成果の概要（和文）：ディーキン大学のソニア・アラン氏と共同研究を行うため、オーストラリア・ビクトリア州のメルボルンに滞在した。ソニア・アラン氏は、健康法が専門であり、生殖補助医療、特に出自を知る権利について長年、当事者とともに法制度の構築に向けて取り組んできた研究者である。オーストラリアに滞在中、西オーストラリアや南オーストラリア州など、国内では詳しい報告が行われていない地域についても情報収集を行った。パンデミックの広がりを受け、2020年3月下旬に日本に帰国した。その後、やりとりを続け、本研究の成果として、共著論文を2報、出版した。また、オーストラリアの滞在中に知り合った研究者と共著論文を投稿した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

2017年にオーストラリアのビクトリア州でドナーの匿名性の遡及的廃止が決定された。この決定は世界に波紋をもたらし、2018年に日本で最大の精子提供の実施機関であった慶應大学で新規ドナーが確保できなくなったと報道された。こうした世界の流れをうけて立法化への動きが加速し、2020年民法特例法にドナーの法的地位が明確化された。その後、出自を知る権利の保障のために公的機関を設立するかどうか政策判断がなされず、匿名性ドナーを容認するかどうかについて判断が留保されている。出自を知る権利の先進地であるオーストラリアの研究者との共同研究による国際比較は生殖補助医療の法制度化の途上にある本邦にとって意義がある。

研究成果の概要（英文）：I stayed in Melbourne, Victoria, Australia, to collaborate with Dr. Sonia Allan of Deakin University. Dr. Sonia Allan is a researcher who specializes in health law and has been working for many years on assisted reproduction, particularly the right to know of donor conceived, with the parties concerned to develop a legal system. During my stay in Australia, I also gathered information on areas of the country that have not been reported in detail, such as Western Australia and South Australia. Following the spread of the pandemic, I returned to Japan in late March 2020. I continued to correspond with them and published two co-authored papers as a result of this research. I also submitted a co-authored paper with a researcher he met during his stay in Australia.

研究分野：社会学

キーワード：生殖補助医療 出自を知る権利 法制度

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

### 1．研究開始当初の背景

1978年に英国で体外受精が開発されて以来、生殖補助医療は不妊を解決する手段としてのみならず、家族を形成する手段として急速にグローバル化している。現在、生殖補助医療は、世界各国で利用され、人々の生活に浸透してきている。体外受精の現場は、核移植や再生医療などの先端生殖技術とも繋がっている。科学技術は普遍性を持ち国境を越えるのが容易であり、生殖ツーリズムを始め課題が山積している。

わが国では、生殖補助医療をめぐる法制度の構築が非常に遅れており、当事者の実態の把握もできておらず、彼/彼女たちのニーズを知り支援に結びつけるなどの適切な政策形成ができていない。国内で得られた知見のみでは有効な施策につなげることはできない。海外の先進地の経験を参照することが不可欠である。

また、現在、生殖医療は個々の国家単位で規制がなされているが、国境を超えた生殖医療が一般化しており、そのことに伴う倫理的・法的・社会的な課題がさまざまに浮上している。こうしたことから、ハーグ国際会議などでは、ハーモナイゼーションの一貫として生殖医療をグローバルに規制しようという動きが出てきている。日本がより良い法制度を模索するためには、こうした国際的な動向を把握することが不可欠になっている。本国際共同研究を、生殖補助医療に関して最先進地であるビクトリア州の研究者とともに行うことによって、基盤研究に対し、国際的な視点を強化して導入し、日本の課題をより鮮明に浮かび上がらせることができる。

### 2．研究の目的

基盤研究の内容を国際化し発展させるため、海外の研究者と共同して、生殖補助医療に関する国際比較研究を行う。特に、代理出産や配偶子提供などの第三者が関わる生殖医療に関し、倫理的・法的・社会的な観点から比較研究を行う。グローバルな視点からみた世界と日本の生殖補助医療の課題を明らかにする。オーストラリアのビクトリア州に滞在し、ディーキン大学のソニア・アラン博士とともに共同研究を行う。オーストラリアのビクトリア州は、生殖補助医療に関する施策では、世界でも最も先進的な地域として知られている。一方、日本は不妊治療大国であるが、生殖補助医療に関し法規制がなされていない。そして、第三者が関わる生殖医療に関し、それを利用する当事者のニーズの解明や支援は進んでいない。当該地域に滞在し、共同研究を行うことで、これからの世界と日本にとってよりよい制度化を考察する。

### 3．研究の方法

ソニア・アラン氏は健康法や生命倫理を専門とする研究者であり、生殖補助医療の法制度について長年研究してきた。配偶子提供によって出生した当事者の権利擁護活動も行っている。国連で当事者と共にスピーチを実施するなど、多角的に活動しており、現場とのつながりもある。南オーストラリア州や西オーストラリア州で生殖補助医療の法律のレビューを実施するなど、政策形成過程にも深く関与している。

ソニア博士は、オーストラリア各州についての制度の比較データを所有しており、世界各国の法制度についても資料収集している。日比野は各国の法制度についての資料を収集しており、両者が持っているデータと照合し、全体地図を完成させ、ホームページに掲載し、比較研究の出発点とする。

日比野は、法制度よりは実際の運用に焦点をあて、国内外で関係者へのインタビューにより実態を把握する。とくにオーストラリアに滞在中は、支援グループへの参与観察、卵子提供、代理

出産の当事者、ゲイカップルによる家族形成の実態把握などを行う。また、アジア諸国で商業的代理出産禁止と利他的代理出産の合法化の動きが広がっており、利他的代理出産の運用についての実態調査結果を合わせて参照する。日本とオーストラリア、アジア各国の状況を比較する。

#### 4. 研究成果

共著論文と単著論文を出版した。以下に主な成果の概要を示す。

・ Absence of laws regarding sperm and oocyte donation in Japan and the impacts on donors, parents and the people born as a result. (共著)

日本の生殖補助医療の現状と、今後の法制度のあり方を、オーストラリアとの比較の観点から論じた。オーストラリアは、出自を知る権利に関して先進地として知られている。オーストラリアでの遡及的な匿名性廃止が日本の精子提供の実施に影響を与え、今後、国内での法制化が加速するであろうことを論じた。

・ Non-Commercial Surrogacy in Thailand: Ethical, Legal, Social Implications in Local and Global Context. (共著)

2015年にタイで生殖ツーリズムの受け入れが禁止され、(親族間・非親族間)利他的代理出産が合法化された。依頼できるのはタイ人及びタイ人と結婚した国際カップルのみとなった。その後、タイ国内で100例ほどが実施されたとみられる。タイで現地調査を行い、関係者にインタビューを行った。生殖ツーリズム禁止後の代理出産の実態を明らかにし、その倫理的な問題点について考察した。

・ 「出自を知る権利 - オーストラリア各州の状況 - 」(単著)

オーストラリアは、出自を知る権利に関して先進地である。最も進んでいるのがビクトリア州だが、それ以外の州については情報が少ない。本稿では、筆者がオーストラリア滞在中に行ったインタビューなどを用いて、それ以外の州の状況についてもまとめた。

・ Ongoing Commercialization of Gestational Surrogacy due to Globalization of the Reproductive Market before and after the Pandemic. (単著)

インドとタイの状況に関して、現地での聞き取りをもとに明らかにした。エリート層やフェミニストの見解だけでなく、代理出産ツーリズムの禁止に関して、代理母たちがどのような意見を持っているかにも着目した。パンデミックの影響についても推察した。

・ Continuing issues and debate concerning transnational commercial surrogacy during the COVID-19 pandemic and beyond. (共著)

パンデミックが代理出産ツーリズムに与えた影響を論じた。パンデミックで国境が閉鎖され、渡航先で出生した子供を依頼者の母国へ連れ帰ることが困難となった。こうした依頼者の窮状を報じるメディアも相次いだ。これを契機に、各国で代理出産の法規制を緩める方向で議論が進む可能性があることを論じた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 Yuri Hibino	4. 巻 14
2. 論文標題 Ongoing Commercialization of Gestational Surrogacy due to Globalization of the Reproductive Market before and after the Pandemic	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Asian Bioethics Review	6. 最初と最後の頁 349-361
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s41649-022-00215-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 日比野由利	4. 巻 37
2. 論文標題 岡野八代・牟田和恵・丸山里美『女性たちで子を産み育てるといことー精子提供による家族づくり』	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 比較家族史研究	6. 最初と最後の頁 245-246
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日比野由利	4. 巻 4
2. 論文標題 「女性活躍」がうまくいかないのはなぜか - 日本女性のハビトゥスから -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 金沢大学国際機構紀要	6. 最初と最後の頁 17-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日比野由利	4. 巻 3402
2. 論文標題 第三者が関与する生殖医療に関する国際協調と規制の可能性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 週刊医学界新聞	6. 最初と最後の頁 9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 日比野由利	4. 巻 76(1)
2. 論文標題 出自を知る権利 - オーストラリア各州の状況 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 医療	6. 最初と最後の頁 4-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日比野由利	4. 巻 4月号
2. 論文標題 生殖の商品化のゆくえ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 すばる	6. 最初と最後の頁 182-191
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yuri Hibino	4. 巻 5月
2. 論文標題 Non-Commercial Surrogacy in Thailand: Ethical, Legal, Social Implications in Local and Global Context	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Asian Bioethics Review	6. 最初と最後の頁 なし
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s41649-020-00126-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yuri Hibino and Sonia Allan	4. 巻 7月
2. 論文標題 Absence of laws regarding sperm and oocyte donation in Japan and the impacts on donors, parents and the people born as a result.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Reproductive Medicine and Biology	6. 最初と最後の頁 なし
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/rmb2.12329	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Yuri Hibino, Sonia Allan and Damian Adams	4. 巻 11月
2. 論文標題 Continuing issues and debate concerning transnational commercial surrogacy during the COVID-19 pandemic and beyond.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BioNews 1074	6. 最初と最後の頁 なし
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 日比野由利	4. 巻 3402号
2. 論文標題 第三者が関与する生殖医療に関する国際協調と規制の可能性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 週刊医学界新聞 (「生殖医療の発展と生命倫理 - 医学の発展は何をもたらすのか -」)	6. 最初と最後の頁 なし
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 日比野由利	4. 巻 23巻
2. 論文標題 書評「村上薫編 不妊治療の時代の中東-家族を作る、家族を生きる」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ジェンダー研究	6. 最初と最後の頁 262-264
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24567/0063815	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 日比野由利	4. 巻 4月号
2. 論文標題 生殖の商品化のゆくえ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 すばる	6. 最初と最後の頁 10-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 日比野由利
2. 発表標題 テリングの実践による家族の再定義
3. 学会等名 第95回日本社会学会 生殖補助医療と多様化する親密性のデザイン:親密性を再定義する実践の検討（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 日比野由利
2. 発表標題 代理出産者への配慮の可能性
3. 学会等名 生殖補助医療・養子&里親によりLGBTの家族形成支援～その可能性と支援システムの構築～（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 日比野由利
2. 発表標題 子どもの知る権利について
3. 学会等名 第37回日本受精着床学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 林はるみ・日比野由利
2. 発表標題 第三者からの卵子提供で妻が妊娠した男性の経験
3. 学会等名 第37回日本受精着床学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 日比野由利
2. 発表標題 卵子ドナー、代理母、依頼親、子どもたちのコミュニティ
3. 学会等名 卵子提供・代理出産で家族をつくる(第7回)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 日比野由利
2. 発表標題 配偶子の匿名性・非匿名性に関する世界の動き:レビュー
3. 学会等名 生殖テクノロジーとヘルスケアを考える研究会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 日比野由利	4. 発行年 2022年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 247
3. 書名 「第三者が関わる生殖技術と子ども - 家族の多様性と子どもの語りをめぐるポリティクス - 」野辺陽子編 『家族変動と子どもの社会学 - 子どものリアリティ/子どもをめぐるポリティクス』	

1. 著者名 日比野由利	4. 発行年 2023年
2. 出版社 金沢大学	5. 総ページ数 118
3. 書名 生殖テクノロジーとヘルスケアを考える研究会 報告書	



1. 著者名 日比野由利	4. 発行年 2023年
2. 出版社 金沢大学	5. 総ページ数 206
3. 書名 生殖テクノロジーとヘルスケアを考える研究会 報告書	

1. 著者名 日比野由利分担執筆 (野辺陽子編著)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 247
3. 書名 家族変動と子どもの社会学 - 子どものリアリティ/子どもをめぐるポリティクス	

1. 著者名 日比野由利分担執筆(二宮周平編著)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 信山社	5. 総ページ数 400
3. 書名 LGBTQの家族形成支援 生殖補助医療・養子&里親による	

1. 著者名 日比野由利(著)・小浜 正子・板橋 暁子(編)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 396
3. 書名 「アジアにおける代理出産ツーリズム - 拡大から廃止、そして法制化へ」 『東アジアの家族とセクシュアリティ: 規範と逸脱』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Yuri Hibino LABOLATORY  
https://hibino.w3.kanazawa-u.ac.jp

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
オーストラリア	Western Sydney University		